

特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会

OAJ NEWS

Olympians Association of Japan

vol. 2020 **37**



スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業



●OAJインタビュー／ダイジェストコラム

求められる多様化した スポーツの価値

鈴木大地（競泳／ロサンゼルス・ソウル）

ちから オリンピックの人間力

「オリンピックの人間力」では、まなざしの奥に潜在するオリンピックの人間力に迫ります。
(文：田坂友暁、写真：フォート・キシモト)



日本の競泳選手がオリンピックではじめて金メダルを獲得したのは、1928年アムステルダム大会の200m平泳ぎの鶴田義行さんでした。それ以来、競泳ではオリンピックを舞台に多くのメダリストを輩出し続けてきました。鈴木大地さんは高校生でロサンゼルス大会に出場し、4年後のソウル大会の100m背泳ぎで16年ぶりとなる金メダルを獲得。背泳ぎでの金メダル獲得は、1932年のロサンゼルス大会での清川正二さん以来56年ぶりでした。1992年に現役を引退。2013年より日本オリンピックズ協会(OAJ)の会長を務め、その後スポーツ庁長官として、世界をフィールドにスポーツの舞台で活躍し続ける鈴木さんに、ご自身の経験とともに、2021年に開催を迎える東京オリンピック・パラリンピックへの思いを伺いました。

Suzuki Daichi

オリンピック：鈴木 大地(すずき・だいち)

1967年千葉県生まれ。7歳から地元のスイミングスクールで水泳を始め、中学時代にその後引退まで指導を仰ぐ鈴木陽二氏と出会う。1984年、高校3年時にロサンゼルス大会100m、200m背泳ぎなどに出場。大学進学後の1987年ザグレブユニバーシアード大会の100m、200m背泳ぎで1位。翌年1988年ソウル大会の100m背泳ぎで、日本競泳陣16年ぶりとなる金メダルを獲得。1992年の4月に現役を引退。母校である順天堂大学で教鞭を取りながら、(公財)日本水泳連盟、日本オリンピックズ協会会長をはじめ様々な要職を歴任。2015年初代スポーツ庁長官に就任後現在に至る。

このインタビューは、
OAJのHPで全文公開していますので
是非ご覧ください。





情報がなかったロサンゼルス大会で ソウル大会につながる経験を得た

今振り返ってみると、私がはじめてオリンピックに出場した1984年のロサンゼルス大会は、難しい大会でしたね。前回大会となる1980年のモスクワ大会に日本は不参加でしたから、前々回の1976年のモントリオール大会に出場された方々は10年近く前の話になってしまうので、当然私よりもひとつつた世代が違っていました。ですから、ロサンゼルス大会の競泳チームの中に、オリンピックを経験した選手がひとりもいなかったんです。要するに、オリンピック独特の雰囲気を誰も経験していなかったわけで、情報はほぼありません。みんな初出場で、ものすごく緊張していました。チームとしての雰囲気というか空気がとてもじゃないですけど、実力を出し切れるような状態ではなくなってしまったんです。

当時、競泳チームのレベルは、決して低くありませんでした。ひとりやふたりはメダルを獲ってもおかしくない実力は持っていたのに、それができない雰囲気になってしまったのはもったいなかったな、と感じますね。

自分もそうでした。はじめてのオリンピックで、もう気持ち

はいっぱ一杯。ただレースをこなすだけでした。もちろん上位に食い込みたい、という目標はありましたけど、リレーで決勝に進出するのが精一杯でした。

でもそこで最大限のことを学ばせていただけたおかげで、次のソウル大会はすべてが違いました。自分なりに大きな目標を掲げていましたし、自信もありました。なによりオリンピックというのがどういう大会なのか、何が独特で、どういう雰囲気なのか分かっていましたから、自分の実力を出すためにはどうすればよいかを冷静に捉えることができていました。

私が現役選手の頃は、オリンピックは2大会に出場できれば多いほうで、ほとんどの選手は1大会のみ出場となることが多かった時代です。そんな中で、私は2回も出場させてもらってとても濃い競技人生だったと思うんですよね。

人生で一度か二度しかないオリンピックのメダルを目指すわけですから、言葉だけでなく、命を懸ける気持ちで練習してきました。一生でこんなに激しい練習をするのは最後だ、という思いで、毎日の練習は本当に死に物狂いで取り組みました。そのくらいの気持ちで毎日、1年、数年トレーニングを続ければ、それなりの結果は出ると信じています。

大学教員を務めていた時、スポーツ史を担当しており、水泳の昔の資料を調べることになったんです。そのとき、過去のオリンピックでメダルを獲得した選手が何とコメントをしていたかということ、だいたい同じ言葉が出てくるんです。

「やっとこれで国に帰れる」

当時は社会情勢として国と国との対立が激しい時代でしたから、海外の選手たちと相まみえるときは死ぬ気で勝たなければならない、という気持ちが強かったのかもしれない。

私のときはもうそれほど激動の時代ではありませんでしたが、そういう記事は選手時代に目にしていましたから、それでも死ぬ気で勝つ、という気持ちを持って臨むのが当たり前だと思っていた節はあります。ソウル大会のときは、それこそレースが終わったらそのまま死んじゃうくらいの気持ちで、すべてやり尽くして、タッチした瞬間に死んでも悔いがのこらないようにする。そんな思いで泳いでいました。

スポーツは多角的に 社会や世界とつながっている

ソウル大会が行われたのは、ちょうど1980年代の終わり、まさにバブルの時代でした。そういう時勢も良かったのかもしれませんが、私がメダルを獲ったあと、全国の水泳人口が20%ほ

ど増えたそうです。これはうれしいことですよね。自分の活躍によって、水泳に興味を持ってくれる方が日本全国にそれだけいたということですから。

このように、オリンピックなどの大きな大会で活躍する選手を見て、競技者ではない一般の方々が刺激を受けて新しいスポーツを始めたり、子どもたちが運動を始めたりしてくれることもあるわけです。

スポーツをする人、見る人が増えれば、自然とスポーツビジネスも大きくなっていきます。それと同時に、スポーツをする人が増えると健康になる人も増えていく。身体を動かすことは、精神的にもとても前向きになる効果があります。それは社会にとっての活力になっていく。総合的にスポーツは社会、世界とつながっていると思います。だから、私たちはスポーツをもっと盛り上げていく必要があると感じているんです。

スポーツと健康について、IOCとWHOが手を結び、取り組んで行くことが決まりました。世界的に、健康のためにスポーツを行うことが推進されていきます。身体を動かすスポーツは、人間の健康を作り上げるための一翼を担うことができるわけですから、単なる競技スポーツではなくなってきている。オリンピックやパラリンピックで金メダルを何個獲るとか、メダル争いをするとか、それも当然大切なことですが、それよりももっと大きな価値が、スポーツにはある、ということを私たちは認識しなければならぬのではないのでしょうか。

スポーツの可能性を広めるために OAJが率先して発信していく

身体を動かすことは、自然治癒力や自己免疫力がアップすることにもつながります。そういう、人間の基礎的な力を向上させてくれるのも、スポーツが担える役割のひとつです。

スポーツと言っても様々です。ひとり黙々と取り組んで楽しむもの、人と対戦して、あるいは大勢で取り組んで楽しむものもあります。健康目的に走ったり、ストレス発散のために身体を動かしたり、自然と戯れたり。スポーツは十人十色の楽しみ方や取り組み方があるんです。そうやって楽しく身体を動かしていく中で、自己免疫力があがっていつの間にか身体が丈夫になって健康になる。そういう世界を作れたら良いですよね。

良い例は、OAJの皆さんですよ。1964年の東京大会でご活躍された方々も多くいらっしゃるんですが、皆さん80歳を超えているのに元気一杯です。スポーツをやってきた人たちは、基礎的な体力が高い人が多いので、病気にもかかりにくいですし、かかったとしても回復力が非常に高い。運動することで身体が健康になる、ということを実感されているいらっしゃる方々です。

そういう意味では、私たちはもっと世の中に発信していかなければなりません。自分たち自身が、スポーツをすれば健康になる、ということを証明しているわけですから、皆さんも私たちと一緒に元気になりましょう、と。



それに、OAJの皆さんは人生をスポーツに懸けてきた人たちの集まりですから、ひとり一人に多くのドラマがあります。そういうドラマは、純粋に面白い。そういった話を聞いた人がそのスポーツに興味を持って、実際に見たり、自分で取り組んだり、もしくは支えてくださるかもしれない。そういう可能性を広げられるわけですから、私たちOAJが発信することで、スポーツの良さ、スポーツの価値をもっと広めることができるのではないのでしょうか。

スポーツを通して何を届けるのか 今だからこそ考えなければならない

今、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが起こり、世界中が混乱と悲しみの中にあります。そんな中でスポーツに取り組めることは、心から感謝すべきことだと思います。

2021年に延期された東京2020大会についてどう思うか、という世論調査の結果を見ると、3分の1は開催、3分の1は再延期、3分の1は中止、と意見が分かれます。

何よりもまずは新型コロナウイルスが収束することが大切ですが、同時に、世界中のアスリートたちが十分なトレーニングを積むことができる状況になった上で無事に開催を迎えたい。そういう気持ちです。

オリンピックを目指す選手たちというのは、人生をスポーツに懸けてきている人たちです。そういう人たちが真剣に、命を懸けて取り組んできたことの成果を試す場所があってほしい、

それを作ってあげたい、ということを中心に思っています。

選手以外の人たちにとってもオリンピックというのは、人生にとって非常に大きな影響を与えることもあると思います。運動するようになった、スポーツをするようになった、というだけでなく、子どもであれば本気でオリンピックに向けて取り組むようになったり、社会人であれば選手の活躍に刺激を受けて新しいことにチャレンジしたり。大げさかもしれませんが、オリンピックを見ることで人生が変わってしまう人もいます。

実際、私が金メダルを獲ったあとにも、当時はまだメールやSNSなんてありませんから、たくさんのお手紙やFAXをいただきました。それこそ、自宅、スイミングクラブ、大学とそれぞれたくさん届いたんじゃないのでしょうか。

ひとつ一つ読ませていただく中で、とてもビックリしたことがあります。

当時私はあくまで自分のために金メダルを獲ろうと思って頑張っていました。でも、いただいた手紙のほとんどに、『ありがとうございました』と書いてあるんです。自分のためにやってきたことが、実際に自分以外の人たちを喜ばせることができる、と知ったときは、本当に驚きました。

自分がスポーツを見る、支える立場になった今であれば、そういった“スポーツの力”は十分に理解できます。でも選手だった自分はそんなことをひとつも考えていなかったですから、オリンピックにはすごい影響力があるんだな、と思ったことを覚えています。

そう考えれば、スポーツの価値、というものが、これからはもっと多様化してくるのではないのでしょうか。だからこそ、今まさにオリンピックというものを考え直す時期なのかもしれません。

先に述べた通り、スポーツを見るだけで元気になることもあるわけで、オリンピックで活躍すること、メダルを獲ることだけではなく、その先のスポーツに何があるのか、という価値のバランスが求められていると思います。

金メダルをたくさん獲る選手は、もちろんそれはそれで素晴らしいことです。それだけの研鑽を積み、大舞台でその実力を発揮するだけの肉体的、精神的強さを持っているわけですから。そして、その姿を見て元気や勇気をもらう人たちもいます。それと同じく、今、世界中で注目されている池江璃花子さんという選手がいます。彼女はメダルを獲る獲らないに関わらず、自分から発信をしていくことで世の中を良い方向に導いてくれている。

簡単に言えば、世の中に対する社会貢献として還元できる方





法はいくらでもあり、それが今、世の中からスポーツに対して求められていることではないでしょうか。スポーツを通して、人々に何を届けられるのかが問われていると実感しています。

今スポーツができることへの感謝を忘れない選手になってほしい

様々な社会情勢はありますが、その中で来年、東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えるにあたり、私たちスポーツに携わる人間、そして選手は、スポーツをもう一段階崇高なものに押し上げるような良いチャンスだと考えて取り組んでいかなければならないと思います。

今、世界的に大変苦しい状況が続いています。そんな中でも選手たちがメダルを獲ることができたなら、単純に「頑張りました！ 応援ありがとうございました！」ではなく、自分が世界最高峰の舞台でスポーツができることへの感謝の気持ちを持てるような選手になってもらいたい。そういうものは、ちょっとした受け答えや行動に表れてくると思います。インタビューを聞いた多くの人たちが『ああ、あの選手はいろんなことを十分に理解した上で、日々練習に取り組み、努力して、素晴らしい結果を残したんだな』ということが伝わるような、オリンピックの深みを見せてくれるような選手がたくさん出てくることを世間は期待しているでしょうし、私もそうあってほしいと願っ

ています。

そういう意味で選手たちは、今までのオリンピック以上に、大きな期待と役割を背負うことになってしまうかもしれません。でも逆に考えれば、それだけ多くの人が注目している今だからこそ、スポーツの本当の良さや価値を伝えられるチャンスでもあるわけです。社会を変える良いきっかけになる。そんな期待を私はしています。とても楽しみです。

あらためて、今は世界中のほとんどの人が予期していなかったことが起こっています。あとから振り返ったら、この時代はきっと忘れられない時代になるでしょう。そういう時代の中でスポーツがやれたこと、やれることというのは、本当にありがたいことです。苦しく、厳しい中ではありますが、あと1年選手たちには精一杯頑張ってもらいたい。

それから、1年延期になったことで単純な競技力だけではなく、どんな逆境にも負けない不屈の精神のような、選手としての精神力も求められた上でのオリンピック・パラリンピックになることでしょう。きっと選手にとっては、とてもタフな1年になると思います。先も見えないような予期せぬ時代です。ですが、そういう時代を乗り越えることができれば、新しいスポーツの価値を生み出すことが必ずできるはずだと思います。

きっと、これからそういう強さを持った選手たちがたくさん誕生するでしょうし、この世代の選手たちが、これからの新しいスポーツの歴史を作っていくと私は信じています。

9
1

山形県山形市
●山形市総合スポーツセンター

水 泳 講師 小谷 実可子

参加人数 29名




10
22

青森県青森市
●新青森県総合運動公園

陸 上 講師 高野 進

参加人数 78名




11
3

鳥取県米子市
●皆生プレイパーク 米子市皆生市民プール

トライアスロン 講師 小原 工
山脇 真知子

参加人数 37名




9
29

石川県金沢市
●金沢プール

**アーティスティック
スイミング** 講師 三井 梨紗子
中村 麻衣

参加人数 45名




11
23

和歌山県和歌山市
●県立和歌山北高等学校(西校舎 体育館)
複合施設体操練習場

体 操 講師 田中 理恵

参加人数 第一部:55名/第二部:42名






1
26

和歌山県橋本市
●和歌山県立橋本体育館

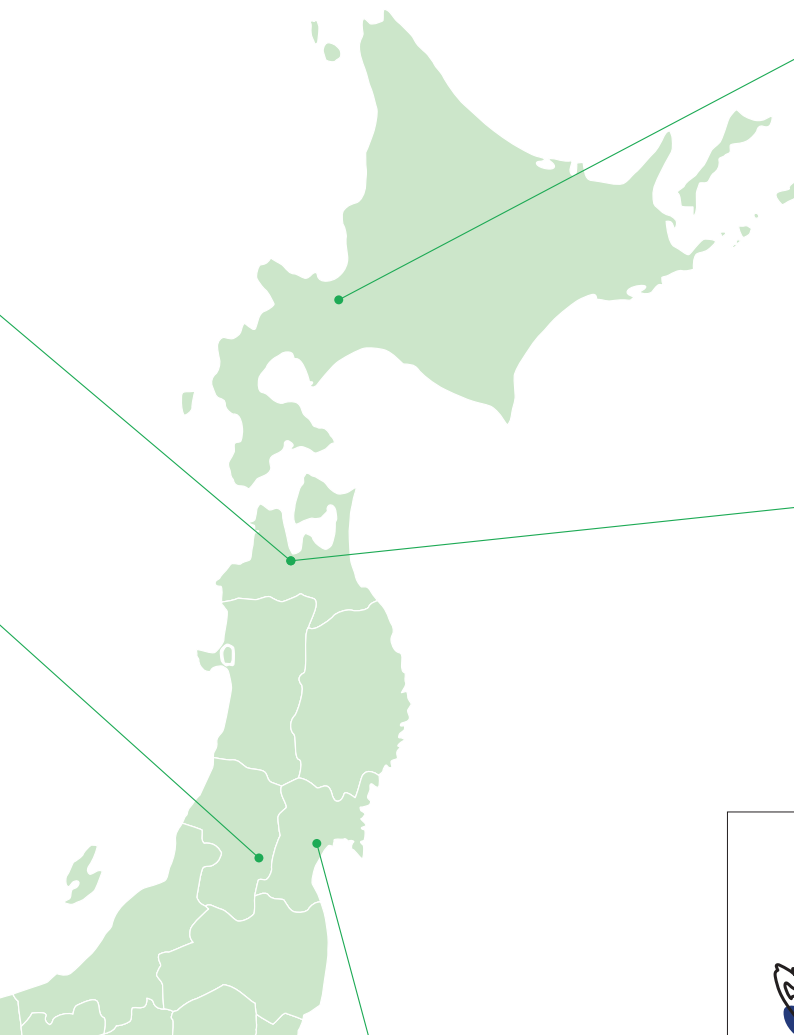
卓 球 講師 佐藤 利香

参加人数 82名





主催／特定非営利活動法人日本オリンピック協会
協力／公益財団法人日本オリンピック協会



9/21 北海道札幌市
●屯田西公園

サッカー 講師 秋葉 忠宏

参加人数 52名

11/23 青森県青森市
●盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)
ホッケーリンク

フィギュアスケート 講師 キャシー・リード

参加人数 27名

9/29 宮城県仙台市
●七北田公園体育館

バドミントン 講師 町田 文彦
岩田 良子

参加人数 106名

2/15 愛知県名古屋市
●名古屋スポーツセンター

アイスホッケー 講師 坂井 寿如
平野 由佳

参加人数 22名

つなげていきます
スポーツへの思い

スポーツジムの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

スポーツジム

www.toto-dream.com www.toto-growing.com
Ⓜ19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

世界オリンピックズ協会 WORLD

OLY HOUSE TOKYO2020 in 2021

東京オリンピックのオリンピックプログラムに、日本の284名を含めて世界中から2,171名のオリンピックが事前登録をしてくださっています。ご登録いただいたオリンピックの皆様ありがとうございます。

東京オリンピック1年延期を受け、現在プログラムの調整を行っています。事前登録いただいた方々には詳細が決定期ご連絡いたしますので、事前登録がまだの方は是非ご登録ください。OLY HOUSEで、皆さまをおもてなしできることを心待ちにしております。

▶ <https://olympians.org/tokyo-2020/>

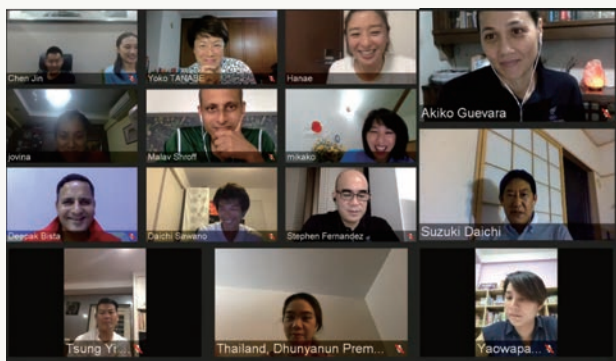


アジアのオリンピックが東京2020組織委員会にエール

オリンピックまで1年を祈念して、アジアのオリンピックが東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への応援メッセージをSNSに投稿しました。これらのメッセージは組織委員会にも直接届けられています。



アジアオリンピック会合を開催



2020年7月24日午後8時、本来なら東京オリンピックの開会式が始まる時間にオンラインでアジアオリンピック会合を開催。8か国のNOA(国内オリンピック協会)から29名が参加しました。小谷実子WOA理事から、東日本大震災でのオリンピックのサポートが希望や勇気につながったこと、被災地の子供たちの応援を受けて2012年ロンドンオリンピックで日本選手団がベストを尽くし、オリンピック後、被災地に再訪し、元気を分かちあったことを紹介し、災害や未曾有の事態が発生した時にオリンピックやオリンピックがもたらす光があることを再確認しました。

鈴木大地OAJ会長からの日本におけるスポーツ再開の現状や東京オリンピックに向けた準備状況の報告を各国参加者は真剣に聞いていました。また、各国代表は、オリンピックへのサポートや活動状況について共有しました。東京オリンピックに関するクイズ大会などもあり、非常に盛り上がった1時間半でした。次回は2021年2月に北京冬季オリンピックまで1年を祈念して開催を予定しています。

WOAオリンピックプログラム

世界中のオリンピックも多くの時間を在宅で過ごしています。そのような中、WOAのオリンピックプログラムへの需要が高まっており、より良いプログラムを提供できるよう、計画しています。

● University of London 授業料免除プログラム

国際スポーツマネジメント学でPostgraduate Certificateを取得できるオンラインのコースです。WOA枠として、2名授業料全額免除、150名授業料半額免除があります。次の応募は、2021年1月入学の授業料半額免除です。

● OLY Arts

世界中には、芸術に従事されているオリンピックが沢山いらっしゃり、ご要望を受け、2018年9月にWOAにOLY Arts Committeeを立ち上げました。日本からは水泳の藤本隆宏さんが委員として参加しています。

東京オリンピックOLY Artsプロジェクトでは、79名からの応募があり、4名のオリンピックが東京への切符を手に入れました。北京、パリ、その次へと続けられるプロジェクトになるように計画したいと考えています。

● Airbnb オリンピアンエクスペリエンス

Airbnbでは宿泊以外にも観光ガイド、料理教室、スポーツスクールなどの体験を提供していることをご存知でしょうか？ Airbnbがオリンピック専用のプラットフォームを開始しましたので、Airbnbを通じてビジネスをしたい方、体験を提供したい方などはぜひご登録ください。



▶ <https://www.olympic.org/athlete365/ja/airbnb/>

● WOA助成金

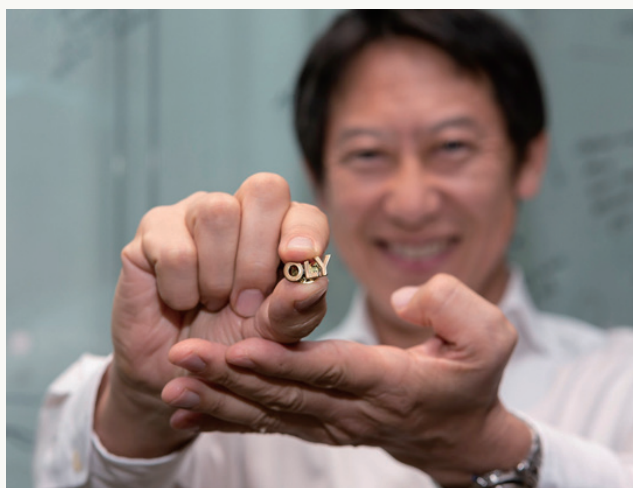
WOAはNOAの年間活動や事務費用をサポートするNOA Development Grant(全NOA対象、今年OAJ受給)、オリンピックの社会貢献をサポートするService to Society Grant(選考で5か国)、オリンピックのキャリア形成などをサポートするService to Olympians Grant(選考で5か国)の3つの助成を行っています。NOAのみが応募対象ですので、応募されたい方は、OAJにご連絡ください。

OLY

OLYはオリンピックに出場したオリンピックのみが使用できる称号で、現在1万4千名のオリンピックが使用しています。日本からは500名以上の方がOLYを取得しており、英国、米国、オーストラリア、カナダ、メキシコに続き、日本は6番目にOLY保有者が多い国です。登録が未だの方は、下記URL(QR)より是非ご申請ください。WOAからのニュースレターや情報は、登録時「私は世界オリンピック協会からの情報、ニュース、機会の提供を希望します。」にチェックされた方のみを送付しています。

また、OAJの会員でOLY認証を受けた方に限定のOLYピンをお送りしています。発行には申請が必要になりますのでOAJのHPにある「OLYピン申請」のリンクバナーからご確認ください。

▶ <https://olympians.org/olympians/oly/>



●それぞれの詳細については、WOAのHPやSNSをご確認ください。

令和元年度 オリンピアンが集い(大阪)

令和2年1月18日(土)
ホテルグランヴィア大阪(大阪府)

毎年3月に東京で開催する総会懇親会に参加できない地方在住のオリンピアンの方々の交流の場として、全国各地で開催してまいりました地方開催の「オリンピアンが集い」も9回目となり、関西地方に在住やゆかりのある方を中心に、オリンピアンならびに日本代表選手団経験者、計56名にご参加いただきました。

会は鈴木大地会長の開会の挨拶から、WOAの理事でもある小谷実可子理事よりOLY(オリンピアン)の称号やWOAの活動、2020東京オリンピック開催期間中に開設されるOLYハウスについてなどのスピーチがあり、続いて地元関西のオリンピアンを代表してサッカーの釜本邦茂さんによる乾杯、歓談中は競技や世代を超えた交流が交わされていました。

会の中では、いよいよ開催が迫った2020年東京オリンピックを前に、1964年の東京オリンピックに出場されたオリンピアンの方にご登壇いただきました。代表として「東洋の魔女」と呼ばれたバレーボール金メダリストの中島百合子(旧姓 半田)さんにご挨拶をいただき、貴重なお話を伺うとともに、2020大会の成功を祈念しました。

早田卓次理事長による中締め挨拶のあと、OLYプレゼンテーションが行われOLY証明書をもつての記念撮影を行い、盛会のうちに散会になりました。今後も各地で開催を続けてまいりますので、引き続き多くの皆様のご参加をお待ちしております。



令和元年度 オリンピアンが集い(ゴルフ大会)

令和元年6月28日(金)
トムソンカントリー倶楽部(栃木県)

スポーツでのオリンピアン相互の交流を目的とし、「令和元年度オリンピアンが集い(ゴルフ大会)」を開催。

12名のオリンピアンの方にご参加いただきゴルフコンペと懇親会を実施いたしました。



お知らせ

●令和2年度「オリンピアンが集い」および「総会・懇親会」について

本年度のオリンピアンが集いにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で安全確保の観点から開催を見送らせていただくことになりました。なお、例年3月に開催しております総会・懇親会につきましては今後開催方法を検討し、決まり次第会員の皆様にご案内させていただきます。

日本オリンピアンズ協会 SNS

Facebook

アカウント名 @oaj.jp



Instagram

アカウント名 olympians_japan

